

日本語サマーコース 2021年度

佐藤 弘毅

1. プログラムの背景と概要

昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、2021年4月にも多くの留学生が来日できない状況が発生した。名古屋大学国際機構国際言語センターが開講する日本語コースは、今年度はすべてオンラインで開講されたため、来日前から参加することもできた。しかし、時差や通信環境の問題、国で教科書を手に入れないために、参加したくても参加できない学生が多かった。特に国費留学生を対象とする第84期日本語研修コース（別の章で紹介する）の受講生は、コースでの日本語学習が今後の大学生活に大きく影響するため、学ぶ権利の保障が重要な課題であった。

これらの学生が日本語を学べる機会を少しでも多く提供し、来学期の学習につなげてもらうことを目的とし、2021年夏季に特別な日本語サマーコースを開講することとなった。

対象は、第84期日本語研修コースに在籍する国費留学生および名古屋大学に在籍する正規生・研究生であった。

期間は、2021年8月18日（水）～8月31日（火）の2週間であった。

開講コースおよび時間数は、対象となる日本語研修生に合わせて以下の2レベルとした。

(1) 初級後半レベル：計10コマ（1日1コマ×10日間）

て形の文法がわかるレベルの人を対象とした。

(2) 中級前半レベル：計10コマ（1日1コマ×10日間）

N3レベルの内容とし、N2やN1を持っている人の受講は認めなかった。

授業はすべてオンラインの同時双方向で行った。授業のお知らせ、教材の配布、課題の提出とフィードバックは名古屋大学のCMS（Course Management System）であるNUCTを使用し、同時双方向のセッションはテレビ会議ツールであるZoomを使用した。

授業開始前に、各回の授業内容やZoomのアドレスなどについてNUCTの「お知らせ」に掲示し、受講者はそれを見て必要に応じて事前学習を行い、時間になったらZoomに接続して同時双方向のセッションに参加した。

2. カリキュラム

(1) 初級後半レベル

授業の目標は、「ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係のある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。(CEFR A2.1に対応)」とした。

教材は、国際交流基金によってWebサイト(<https://www.irodori.jp/f.go.jp/>)で提供されている「いろいろ生活の日本語」初級1（A2）を用いた。各コマの具体的な内容は以下の表の通りである。

回	内容
1	オリエンテーション、第2課 1. 2. (自分のことを話す)
2	第2課 3. 4. (自己紹介を書く)、発表1「自己紹介」
3	第3課 1. 2. (季節について話す)
4	第3課 3., 発表2「自分の国の季節について紹介する」準備
5	発表2「自分の国の季節について紹介する」 第4課 1. (天気について話す)
6	第5課 1. 2. (自分の住んでいる町について話す)
7	第6課 3., 発表3「自分の街について紹介する」準備
8	発表3「自分の町について紹介する」、質問する
9	第7課 2. 4. (待ち合わせをする、遅れることを伝える)
10	第8課 1. 3. (自分の経験を話す、相手の経験を聞く)

(2) 中級前半レベル

授業の目標は、「日常的な言葉が使用された読み物・音声コンテンツを理解し、それについて意見交換ができる。(CEFR A2.2～B1に対応)」とした。

教材は、「みんなの教材サイト」に掲載されている「JFS 読解活動集」、および「名古屋大学日本語コース 中級 I 聴解ワークシート」を用いた。各コマの具体的な内容は以下の表の通りである。

回	内容
1	8C お見舞い（聴解）、6 クーボンの情報を読み取る（読解 A2）
2	1 クローゼットの整理収納についてのブログを読む（前半）（読解 B1）
3	1 クローゼットの整理収納についてのブログを読む（後半）（読解 B1）
4	4 悩み相談サイトに投稿された相談とそれに対するアドバイスを読む（前半）
5	4 悩み相談サイトに投稿された相談とそれに対するアドバイスを読む（後半）
6	9A 番組の紹介（聴解）、10四コマ漫画を読む（読解 A2）
7	9 東京五輪について書かれた文章を読む（前半）（読解 B1）
8	9 東京五輪について書かれた文章を読む（後半）（読解 B1）
9	11. AI の可能性について書かれた雑誌記事を読む（前半）（読解 B1）
10	11. AI の可能性について書かれた雑誌記事を読む（後半）（読解 B1）

3. 受講状況

以下の表に受講者数を示す。表のカッコ内は日本語研修コースの国費留学生である。

	受講登録者数	初回授業出席者数	修了者数 （※80%以上の出席）
初級後半レベル	11名（1名）	9名（1名）	8名（1名）
中級前半レベル	20名（1名）	14名（1名）	6名（1名）

特に中級前半レベルでは辞退や欠席が比較的多かった。主な辞退理由としては、研究活動と重なったため、授業内容と自分のレベルが合わない、などがあつた。しかし、日本語研修コースの受講生は無事修了し、学ぶ権利を保障するという目的は果たせた。また、名古屋大学の正規生・研究生についても、出席が任意で完全にオンラインのコースとしては高い修了率であると考えられ、高い学習意欲とニーズが伺えた。

4. 今期の評価と今後の課題

授業を担当した教員からは、熱意のある受講者が多いという声が聞かれた。コースの最後に授業評価アンケートを行ったが、ほぼすべての項目で「あてはまる」「ややあてはまる」の高評価であった。

一方で、今回のコースのレベル設定は日本語研修コースの受講生に合わせて行ったため、名古屋大学の正規生・研究生からは参加したくても自分に合うレベルがないという声も聞かれた。今後は、新型コロナウイルス感染症の状況、留学生からのニーズなどをうかがいながら、このような集中的な特別コースの開講を続けるべきかどうか検討していきたい。